

氷川神社
社報 第十八号

武蔵一宮



待ち遠しい祭りの声
音 活 気



平成15年



平成2年



昭和40年代



平成20年



平成9年



昭和50年代



平成25年



平成29年



令和元年

八月一日の例祭では勅使奉迎のため、各町内の山車や神輿、約四十基が三の鳥居内に参集します。参集にあたっては例年、埼玉県警の警備を頂いておりますが、昨年はオリンピックの警護のため、警察署員の派遣が不可能な事、また、新型コロナウイルス感染症が終息しない事から山車神輿の参集は中止となりました。

本年も新型コロナウイルス感染症の世界的拡大によりオリンピックが本年に延期した事と、感染症拡大防止の観点から本年も山車・神輿の参集は中止となっております。

勅使奉迎の役目を終えた後には各町内を、あるいは中山道まつりの揃い渡御・巡行など大いに賑う山車・神輿。

来年こそコロナが終息して、大宮の夏が例年通りの賑いを取り戻すようお願いしております。

東京2020オリンピックの夏

東京での二度目のオリンピックとなる東京オリンピック2020が、一年越しの思いを乗せて始まろうとしています。三月二十五日に福島から出発した聖火リレーは、新型コロナウイルス感染症の増減の波の中で、コース変更を余儀なくされながらも埼玉県まで届けられました。

当初は初日である七月六日に、川口市から県南の各市を通り所沢市まで、二日目の七日に、草加市、秩父市、春日部市など東西を横断するコースで熊谷市まで、三日目の八日に川越市を出発し県の中央部の各市町を通りさいたま市に聖火が運ばれ、当社の本殿前からさいたま新都心公園でゴールとなり東京都に引き継がれる予定でした。

しかしながら、四月二十日より適用された「まん延防止等重点措置等に基づく協力要請」が八月二十二日まで延長された事により、さいたま市と川口市では公道リレーが中止となりました。

オリンピックは七月二十三日から八月八日までの十七日間、パラリンピックは八月二十四日から九月五日までの十三日間、一都一道七県の各会場で開催されます。

我が国の選手の活躍もさることながら、何よりもまずオリンピックが安全に、感染症が再拡大する事無く行われる事を心よりお祈りを致します。

祭事暦

当社では毎日の日供祭以外にも年間約七十の祭典を行い、謹んで御皇室の弥栄と国家安泰、五穀豊穰と氏子崇敬者の繁栄を祈願しております。

四月 一日 月次祭

三日 神武天皇祭通拝式

五日〜七日 鎮花祭

九日 埼玉県護国神社例祭

十五日 献詠祭(兼題 山)

二十九日 昭和祭

五月 一日 月次祭

五日 祝子祭

九日 御鎮座祭

十五日 献詠祭(兼題 葉桜)

二十一日 道饗祭

六月 一日 月次祭

五日 粽神事

十五日 献詠祭(兼題 夏木立)

三十日 大祓式

茅の輪設置期間

六月十九日〜七月十一日



大祓式



鎮花祭

氷川神社の神楽②

橋上祭に行われる神楽は、天保四年(一八三三)の『氷川大宮大々神楽式』に、三座の一には天長地久六合堅固といふ幣舞なり 二には神劍三段真井三處といふ劔舞なり 三には八潮道阿南佐夜気といふ扇舞なり」とあります。

前号に記載の通り、江戸期に行われていた神楽は伝承が途絶え、現在は江戸里神楽の流れを汲む大成三丁目囃子連が神楽を奉納しております。三月の郷神楽祭、八月の橋上祭、十一月の新嘗祭で舞われる舞は「禊の舞」ともいい、明治以降始まったもので、左手に幣・櫛・剣の三種の採物を順に持ち、右手に鈴を持って舞います。幣や櫛はもともと神事に使用されているもので、神の依代として、また祓の要素も持っております。鈴は、神楽に欠かせないもので、囃子と響き合う華やかな音楽要素だけでなく、神を呼びおろす意味合いもあります。



橋上祭神楽



採物

社頭往来

大宮剣道連盟奉納演武



四月四日午後二時、大宮剣道連盟中村好一会長他演武者が正式参拝並びに形の奉納を行いました。本年は打太刀教士七段前川善行様、仕太刀教士七段大江原博臣様による日本剣道形が奉納されました。昭和十一年より現代剣道の基礎を築き「昭和の剣聖」と称された高野佐三郎先生御臨席のもと、境内で剣道大

会を実施してりましたが、現在では大宮武道館で大会を行っております。

大成神楽奉納

四月七日神楽殿にて大成三丁目囃子連による、里神楽が奉納されました。



特別紙朱印「ほたる」



五月八日より特別紙朱印「ほたる」の授与を開始致しました。

小笠原教場百々手式

五月八日、弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家小笠原清忠様主催の、墓目の儀並びに百々手しき式が小笠原教場会員約三十名により奉納されました。



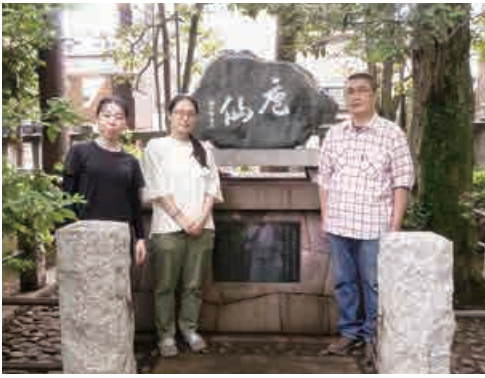
ひょうたん池清掃奉仕

五月十二日、氷川ほたるの会会員によりひょうたん池の清掃奉仕が行われました。



庭仙碑清掃奉仕

五月二十八日、正式参拝の後、新宿調理師専門学校の方々により庭仙碑の清掃奉仕が行われました。また、日を改めて再度清掃、六月二十五日には胡粉の塗り直しも行って頂きました。



新能奉納

五月二十八日七時より舞殿にて、公益社団法人さいたま観光国際協会主催の大宮新能の奉納並びに収録が行われました。こちらの新能はテレビ埼玉で放送されましたが、九月十二日まで、YouTubeのテレビ埼玉及びさいたま観光国際協会のチャンネルにて、無料で観賞する事が可能です。

奉納演目

素謡(金春流)翁 金春憲和
能(金春流)羽衣 本田光洋



裏千家献茶式

五月三十日午前十時、裏千家淡交会埼玉県支部による献茶式が執り行われました。御神水で湯を沸かし、御家元名代伊住禮次朗様の御奉仕にて神前に濃茶、薄茶が奉納されました。また今般は、三笠宮崇仁親王の第二女子である千容子家元夫人の御臨席も賜りました。



埼玉百五十周年記念展

六月一日より六月二十三日まで、埼玉県立近代美術館にて埼玉



玉百五十周年記念展『埼玉の美術史1871・1960』が開催されました。当社からも浦和画家の一人で、浦和中学校の美術教師であった福宿光雄(雅号福宿一穂)が昭和十二年に行われた仮殿遷座祭の様子を描いた『仮殿遷座祭絵巻』上下巻を貸し出し展示致しました。

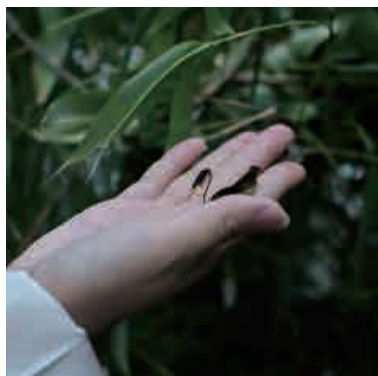
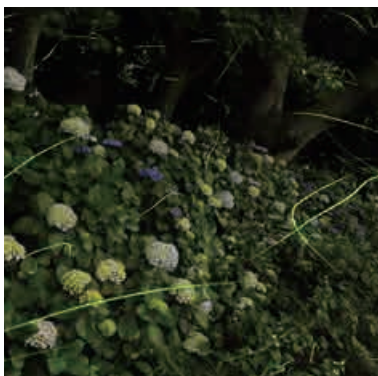
特別紙朱印「茅の輪くぐり」

六月五日より特別紙朱印「茅の輪くぐり」の授与を開始致しました。



螢放生祭

六月五日十八時より、舞殿にて螢放生祭を行いました。その後、氷川ほとたるの会会員により神池の西側にゲンジボタル約八百匹が放されました。



また、螢放生を記念し画家のはせがわいさお様より「氷川の神螢」の絵画を御奉納頂きました。



夏越大祓授与品

六月十九日より茅の輪設置にあわせ、茅の輪守の授与を開始しました。



茅の輪守(小)

書元会書道廻廊展示

六月二十九日から七月二日まで例年、大祓式に合わせ展示される書元会による書道の廻廊展示が行われました。今回は小学一年生から中学三年生までの会員の作品で「しろ」、「げんき」、「あいさつ」、「手をうつ」、「明るい心」、「神社の池」、「並木参道」、「神話伝説」が兼題となりました。



茅の輪守(大)



四月の奉納献華



古流松藤会	岩波理豊
池坊	草谷智花
草月流	冲山草俊
桂古流	小林華侑
古流松藤会	川嶋理智
桂古流	高橋典花
正風流一光会	桐生一光

※五月は社会情勢に鑑み中止致しました

六月の奉納献華



古流松藤会	岩波理豊
池坊	草谷智花
草月流	冲山草俊
桂古流	小林華侑
桂古流	高橋典花
草月流	竹下尚峰
正風流一光会	桐生一光
春草流	栗原春彩

令和四年正月臨時職員(アルバイト)募集について

来る令和四年正月に神職・巫女を補佐する臨時職員として、御奉仕頂ける男女学生を募集しております。

一、期間 大晦日～一月三日、四日～七日、

以降一月中の土日など複数の枠があります

一、人数 男子 約 三十名

女子 約 一五〇名

八月二十二日(日)に説明会を行います。詳細は神社ホームページをご確認いただくか、神社に直接お問い合わせのうえご参加ください。

牡丹奉納



この度、有限会社大成造園様より牡丹の奉納を頂きました。御篤志に厚く御礼申し上げます。

参道清掃奉仕御礼

参道の清掃活動を頂きました皆様の芳名を紹介し、謹んで御篤志に感謝申し上げます。参道清掃のお申し出、お問い合わせは社務所までお願い致します。

(五十音順、敬称略)

阿含宗埼玉道場

大宮明るい社会づくりの会

みずほ証券株式会社

正式参拝及び諸会議

(敬称略)

四月 四日 立正佼成会大宮教会

大宮剣道連盟

大宮ロータリークラブ

武蔵菊花会菊作り研修会

北足立郡市総代会

埼玉県神道青年会監査会

太宰府天満宮宮司

ミセスジャパン2021

埼玉大会

埼玉県神道青年会総会

水川ほたるの会

水川神社敬神婦人会

敬神婦人会総会

小笠原教場

氏子青年会監査会

武蔵菊花会菊作り研修会

監査会

幡ヶ谷水川神社宮司

ミロク塾

さいたま観光国際協会

如月会

責任役員会

敬神講社理事會

氏子総代会並評議員会

大宮新能

新宿調理師専門学校

水川神社氏子青年会

水川ほたるの会

(株)エイコム埼玉・東日本

武蔵菊花会菊作り研修会

氏子総代会並評議員会

四月 四日

十一日

十三日

二十一日

二十二日

二十七日

二十八日

五月 八日

十五日

十六日

十八日

十八日

二十日

二十一日

二十二日

二十六日

二十九日

六月 一日

四日

二十日

二十五日

二の鳥居 耐震検査

参道中ほどの二の鳥居は明治神宮の大鳥居を譲り受け、昭和五十一年に建てられたものです。建立から四十年以上が経過した事もあり、この度、耐震検査(五月十一日〜六月三日)を実施致しました。



足場が組まれた三の鳥居

清祓いの後、まず足場を組み、鳥居の袴(根巻)鉄板部分を剥がし調査、部分研り調査を行いました。



袴鉄板部分を剥がし調査



5月3日 清祓い



内部調査



屋根部分

台湾産檜の大鳥居

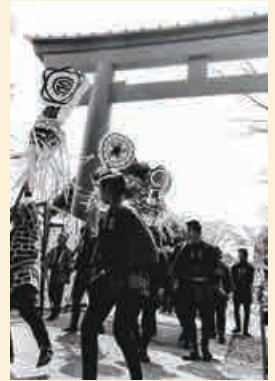
大正九年に明治神宮に創建された、この大鳥居の材木は台湾産の檜(ヒノキ)です。明治神宮御造営の時に台湾総督府より献木されたもので、台湾阿里山(アーリーシャン)の西腹より伐採され、樹齢は一二〇〇年以上に達していたといわれます。

雷が落ち破損した事で、建て替えとなり、御縁によって当社の第二鳥居となりました。

現在の明治神宮の大鳥居は、東京の材木商から献木がされた二代目で、創建時と同様に台湾産の檜で建てられています。



明治神宮時代の大鳥居



第二鳥居は昭和五十一年三月四日に現在の場所に建立されました。午前五時、二台の大型トレーラーに分載されて東京を出発し、午前八時過ぎに無事、大宮に到着、大型クレーン車などをを用い、約十一時間かけ組立作業を行いました。

明治神宮にあった際には、素木のままでしたが、当社の他の鳥居に合わせ一ヶ月かけて、朱の鳥居となりました。

竣工式は四月五日に行われており、くぐり初めでは、東角井光臣宮司や秦大宮市長に続いて、大宮とび職組合の組合員四十人による木遣り纏振り行進や大宮観光協会青年部のむさしの太鼓など賑やかな奉祝行事が行われました。

四月十六日には明治神宮より、伊達宮司はじめ高澤・福島・副島権宮司と技師など七名で御来社頂きました。

この頃は、かつての参道の主役であった松や杉の姿は無く現在につながるケヤキの若い枝ぶりが見てとれます。

古絵葉書に見る二の鳥居

古絵葉書集「氷川の杜を訪ねて」には時代の転換期であった、明治末から昭和頃までの氷川の杜の原風景を載せた絵葉書が収められています。そこには、現在の様子からは想像もつかない参道や、勅祭社として威容を整えていく神社の姿ともにかつての二の鳥居の姿も見る事が出来ます。貴重な史料としては是非、御一読頂きたい書籍です。



明治末の二の鳥居(手彩色)

氷川神社の分布

全国に鎮座する氷川神社。その多くは旧武蔵国である埼玉県と東京都に集中しており、東は元荒川・綾瀬川、西は多摩川を限界として荒川水系に分布しているという特徴があります。

武蔵国二十二郡の中では、足立郡が最も多く、入間・比企・多摩郡にも多く分布しています。これは、当社が奈良時代に起きた藤原仲麻呂の乱鎮圧に活躍した丈部直不破麻呂をはじめとする足立郡司と密接な関係を持っていたと考えられています。

また、それ以外にも洪水の被害に苦しんでいた地域の人々が、水神である氷川神社を祀り治水の御利益を祈った事、平安時代から中世にかけて進んだ神仏習合と修験者の活動により拡がった氷川信仰、武蔵武士の台頭などで各地に氷川神社が祀られたと考えられます。



氷川神社の社名の由来

本殿の北西には蛇の池じまの池があります。今なお、湧き出て神池かみいけへと注ぐ清水は、当社の原初の姿を感じさせます。

氷川神社の社名の由来は二説あり、一つは古語で靈験あらたかな泉を表す氷川ひまがわが社名となったというものです。

もう一つは、「氷川大宮縁起」や『風土記稿』に、出雲の国の杵築大社きづきおほやしろ(出雲大社)を遷して氷川神社の神号を賜ると伝わるとある事から、出雲の大河である斐伊川ひいかわ(簸川、肥河とも)にちなむというものです。

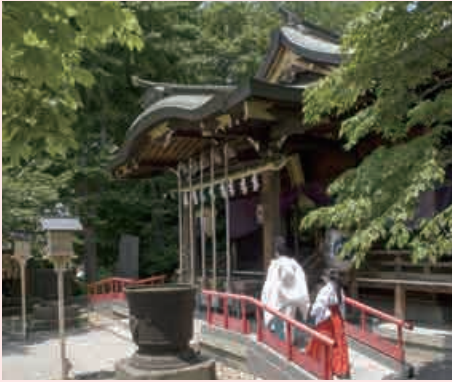
写真協力：公益社団法人 島根県観光連盟

氷川神社 分社紹介

全国には氷川神社の分社が約二八〇社ございます。その多くは旧武蔵国である埼玉県、東京都、神奈川県の一部に鎮座しております。前号では本殿を移築した分社を御紹介致しました。今号ではかつて先代の東角井光臣宮司が扁額を揮毫した分社を御紹介致します。

鎮守 氷川神社

川口市青木五・一八・四八



鳩ヶ谷 氷川神社

川口市鳩ヶ谷本町一・六・二



赤塚 氷川神社

東京都板橋区赤塚四・二二・一



川口神社 (明治四十二年改称)

川口市金山町六・十五



七五三授与品九月一日開始

七五三詣の御祈禱の際には左の写真の物をお渡し致します。御祈禱に予約は必要ありません。七五三セットプラン、ロケーション撮影などにつきましてはホームページを御覧下さい。

初穂料一万円お納めの方
祈禱札(大)に氏名が入ります。



初穂料五千円お納めの方
祈禱札(小)には氏名が入りません。



三万円以上お納めの方は、御札が特大祈禱札(氏名入り)になり
一万円セットの他に、**神話カレンダー**・御神酒・御饌・神楽土鈴かぐらどしずがつきます。

婚礼展示会の御案内

左記の日程で婚礼展示会を開催致します。皆様の御来場をお待ちしております。

記

日程 九月二十日(月・祝)

午後一時〜午後四時

会場 氷川神社 呉竹荘

会費・予約 不要

※婚礼時の感染症対策、人数の御相談など結婚式御用部は休みなく開いております。(午前九時〜午後四時)
お問い合わせ
〇四八・六四一・〇一三七



5月11日、本年もカルガモの親子が神社を訪れました。Instagramに投稿したところ、愛らしい姿に多くの「いいね!」を頂きました。年中行事のお知らせ、特別紙朱印の他、最新の御案内はホームページ、Instagram、ツイッターなどで行っております。



第十九号は十月十五日発行予定です

発行 令和3年7月20日 発行所 氷川神社社務所

写真協力 公益社団法人さいたま観光国際協会 宮野信昭 中村写真館 印刷所 株式会社 秀飯舎
さいたま市大宮区高鼻町1-407 電話 048-641-0137 <http://musashiichinomiya-hikawa.or.jp/>